

大山公民館で展示をおこないます！ 日田市立博物館 企画展

鍛冶の歴史と日田の鍛冶屋さん

令和 3 年 11 月中旬～1 月末まで日田市立博物館で行われた企画展を 大山公民館 で下記期間中展示いたします。

展示期間 2 月 8 日 (火) ～3 月 7 日 (月)

※土日を除く平日

展示場所 大山公民館 102.103 研修室

開館時間 午前 8 時 30 分～午後 5 時

鍛冶の歴史は日本では弥生時代までさかのぼります。鍛冶は稲作とともに伝わった技術で、それまで石製の道具を使っていた日本に大きな革命を起こしたといわれています。

戦前・戦後にかけて日田にはおよそ 30 軒もの鍛冶屋さんがあり農具・林業道具・下駄工具・石工道具・大工道具を作り市民にとって不可欠な存在でしたが、現在日田で唯一残るのは大山町中川原の「川津鍛冶工場」さんだけとなっています。

企画展では鍛冶や製鉄がどのような歴史を生み、日田の鍛冶屋さんが人々の暮らしとどのように関わってきたかを紹介しています。川津由雄さんの鋏をつくる工程動画やコメントを展示しています！

鍛冶からきた言葉やことわざ知ってる？

(企画展展示クイズコーナーより抜粋)

●鉄は熱いうちに打て

鉄は赤く焼けたときに打たなければ冷えて硬くなり折り曲げて形を整うことができなくなる⇒自分が行おうと決心したことはすぐにやるべきだ。

●相槌（あいづち）を打つ

鍛冶を行う時には、師匠と弟子が交互に鉄を打ちました。師匠の打つタイミングにあわせて槌（つち）をふり降ろす様子はとても息が合いました。⇒相手の話に合わせること。

●代わり番子

鍛冶屋が鉄をつくる「たたら場」では、炉内の温度を高めるための「ふいご」と呼ばれる送風装置がありました。ふいごを吹く作業にあたった人々は「番子」と呼ばれ、作業が一人では大変なので交替で行っていました。⇒交替しながら作業すること。

●極め付き（今は「極めつけ」として使われている）

刀鍛冶が満足のいく品物ができると、「極め書き」という鑑定書を刀と一緒に添える風習がありました。「極め書き」がある刀は価値が上がることから、それが添えられていることを「極め付き」というようになりました。

●とんちんかん（頓珍漢）

鍛冶場では、師匠と弟子が交互に鉄を打ちましたが、その打つ音がずれて聞こえる響きを「とんちんかん」と呼んでいました。

